

# 私たちが果たすべき使命

富士見市長 星野光弘

先の第二次世界大戦において、広島・長崎に原子爆弾が投下され、壊滅的な打撃を受けた日本。戦争の悲惨さを思い知り、「二度と戦争を起さない」と強く誓った私たちは、終戦から現在に至るまでの74年間、他国と戦火を交えることのない平和な年月を積み重ねてきました。

しかし、世界では宗教的対立や民族・地域間の紛争などさまざまな戦争の火種が絶えずさぶついています。そして、平和国家として歩み続けてきた日本の周辺でも核兵器やミサイルの脅威があり、最近では中東のホルムズ海峡付近で日本企業が運行するタンカーが攻撃されるなど、戦火の影はまだまだ私たちのすぐ近くで息を潜めているかのようです。

今、世界では9か国が核兵器を保有しており、その数は1万4千500基以上とも言われています。人類は自らを作り出した核兵器によって、地球規模での危機的状態に陥っていることに気付かなければなりません。そして、世界で唯一の被爆国として、核兵器がもたらす惨劇を思い知らさ

れ、受け継いできた私たち日本人は、世界中の人々に核の恐ろしさと核兵器廃絶を訴えていく使命があります。私はヒバクシャ国際署名を行います。この使命を果たしていく決意を新たにいたしました。

富士見市では、1987年（昭和62）に非核平和都市を宣言してからピースフェスティバルをはじめとする平和事業を実施し、市民の皆様へ平和の大切さについての啓発活動を行ってまいりました。また、原爆投下日と終戦記念日には1分間の黙とうを呼びかけ、市全体で戦争犠牲者の御霊に哀悼の誠を捧げています。市民の皆様におかれましては、改めて富士見市非核平和都市宣言をお読みいただき、その言葉に込められた意味について考える機会にさせていただきたいと思えます。そして、先の大戦で奪われた多くの方々の尊い命に想いを馳せ、一人ひとりが平和の大切さを心に刻み、私たちが果たすべき使命についての考えを深めていただければと願っております。

## 富士見市非核平和都市宣言

私たちは 何よりも家庭の平和を願い世界の平和を願っています。

しかし 地球をおおっている核兵器は世界の平和と安全を脅かしています。

私たちは 広島・長崎の過ちを再び繰り返させてはなりません。

私たちは 平和憲法を大切にし、世界中の人びとと手をつなぎ核をもつすべての国に「今すぐ核兵器を捨てよ」と訴えます。

この市民の声と願いを非核平和都市富士見市の宣言とする。

1987年7月19日

## 黙とうを捧げましょう

市では、原子爆弾や第2次世界大戦で犠牲になられた方々のご冥福と、核兵器をなくし平和な世界が実現することを願い、次の日時に防災行政無線を通じ、市民の皆さんに1分間の黙とうのご協力をお願いしています。

- ・ 広島市原子爆弾投下日 8月 6日午前 8時15分
- ・ 長崎市原子爆弾投下日 8月 9日午前11時 2分
- ・ 終戦記念日 8月15日正午